

近所づきあいと近所に対し困った・不快に思った経験

— 「ライフデザイン白書 2015年」より —

上席主任研究員 宮木 由貴子

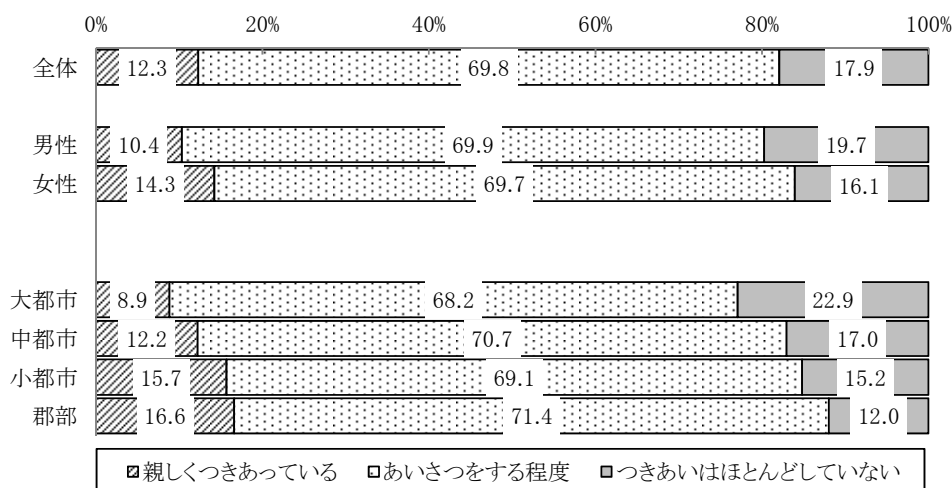
<近所づきあいの状況>

「遠くの親戚より近くの他人」と古くからいわれるように、「ご近所」は便利で心強い存在である。しかし一方で、「ご近所」は何かと気をつかう存在でもある。第一生命経済研究所で2013年に実施した「40・50代の不安と備えに関する調査」でも、何かあった時に頼るのは家族や親戚であるとする割合が全体的に高い(図表省略)。こうした中、人々は近所の人とどの程度のつきあいをしているのだろうか。

第一生命経済研究所が発行した「ライフデザイン白書2015年」から、近所づきあいの状況についてみると、「親しくつきあっている」とする人は全体の12.3%だった(図表1)。大半が「あいさつをする程度」のつきあいであるとしており、「つきあいはほとんどしていない」とする割合は2割弱である。性別に比較すると、男性より女性で「親しくつきあっている」とする人がやや多い。

また、都市規模別にみると、都市規模が大きくなるにつれて近所づきあいが少なくなっている。特に大都市では「つきあいはほとんどしていない」とする割合が22.9%と2割を超えており、「親しくつきあっている」とする割合は8.9%にとどまっている。

図表1 近所づきあいの状況(全体、都市規模別)

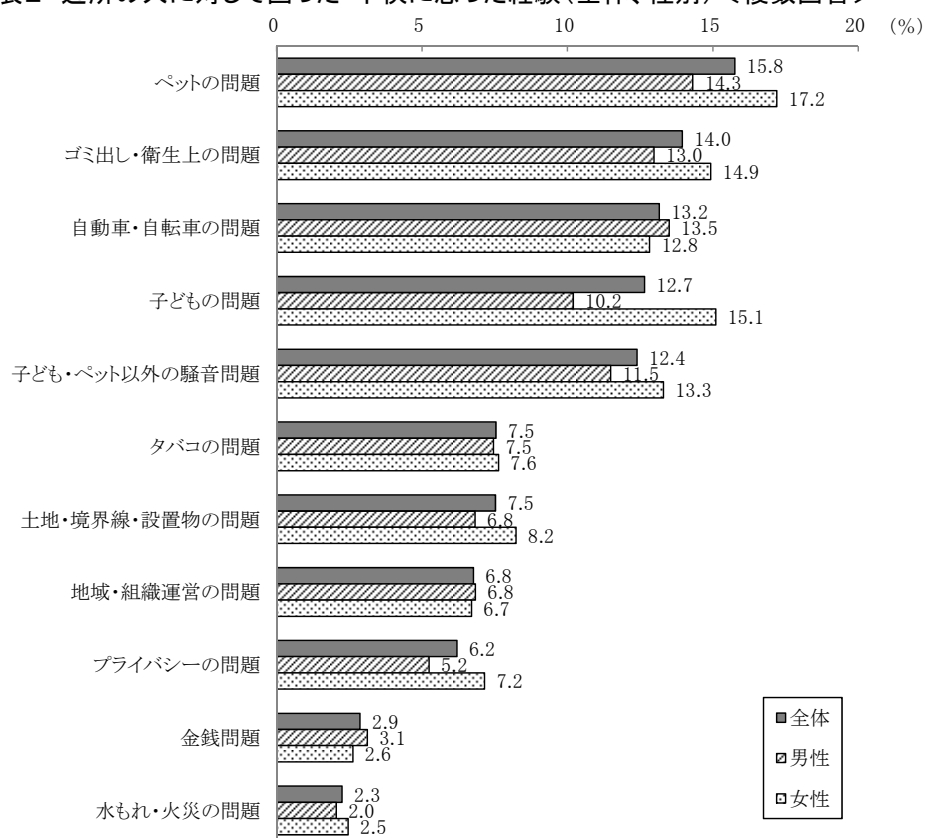


<近所の人に対して困った・不快に思った経験>

こうした中、近所に対して困った・不快に思った経験としてどのようなものがあるのかについてみた。「現在のお住まいで、近所の人に対して困った・不快に思った経験がありますか」との質問に対し、全体で最も多かったのは「ペットの問題」(15.8%)となっていた。これに「ゴミ出し・衛生上の問題」「自動車・自転車の問題」「子どもの問題」「子ども・ペット以外の騒音問題」が続く。

性別にみると、全体的に男性より女性で、困った・不快に思った経験が多い。特に男女の差が大きかったのは「子どもの問題」「ペットの問題」である。

図表2 近所の人に対して困った・不快に思った経験(全体、性別)<複数回答>



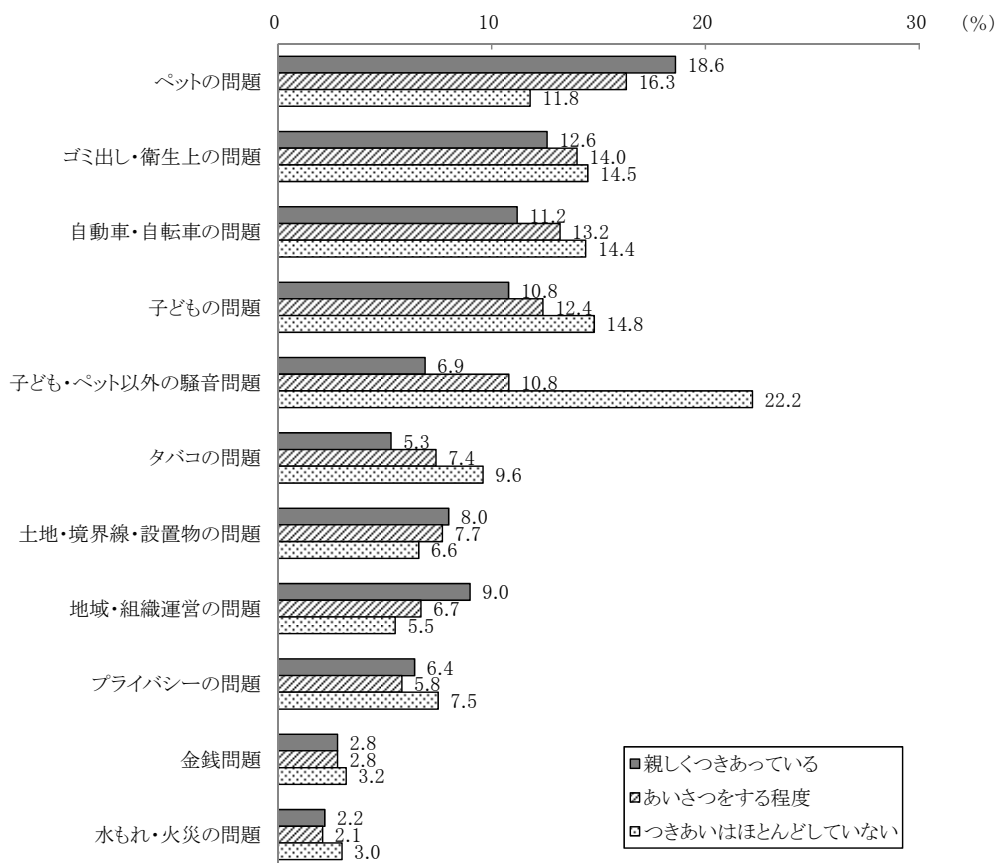
注: 調査票における質問項目の詳細は以下のとおりである

- ・ペットの問題 : ペットの飼い方や臭い、鳴き声、排泄物、えさやり、危険動物など
- ・ゴミ出し・衛生上の問題 : 曜日や分別などのルール違反、汚物の蓄積や臭いなど
- ・自動車・自転車の問題 : 駐車・駐輪の仕方や排気ガスなど
- ・子どもの問題 : 子どもの声や生活音、いたずら、器物損壊、親同士の付き合いなど
- ・子ども・ペット以外の騒音問題 : 上下階や近隣の家がうるさいなど
- ・タバコの問題 : ベランダでの喫煙、吸殻の後始末など
- ・土地・境界線・設置物の問題 : 所有権、植木や落ち葉、日照など
- ・地域・組織運営の問題 : 自治会、理事会、当番など、金銭問題は除く
- ・プライバシーの問題 : 干渉、嫌がらせ、うわさ・デマ・悪口、のぞき、スターカーなど
- ・金銭問題 : 金銭授受、家賃、自治会費など

近所づきあいの状況別にみると、「ゴミ出し・衛生上の問題」「自動車・自転車の問題」「子どもの問題」「子ども・ペット以外の騒音問題」「タバコの問題」は、「つきあいはほとんどしていない」とする人で多く、「親しくつきあっている」人で少なかった（図表3）。これらの問題は、近所の人とコミュニケーションをとることで、ある程度問題が解決できる、もしくは不快な思いが軽減されるものなのだろう。

一方で、「ペットの問題」「土地・境界線・設置物の問題」「地域・組織運営の問題」に困った・不快に思った経験は、「つきあいはほとんどしていない」とする人で少なく、「親しくつきあっている」人でやや多かった。これらの問題は、近所づきあいがあるからこそ表面化する可能性がある点に加え、「ゴミ出し・衛生上の問題」「自動車・自転車の問題」「タバコの問題」などのように、ルールの遵守と違反、もしくは加害者と被害者という形で立ち位置を明確にすることが困難である。それぞれの主張があるために気軽に指摘しにくく、問題が解決されにくい面があるのだろう。いずれにしても、近所の人とコミュニケーションをとることで解消されるようなものではないようだ。

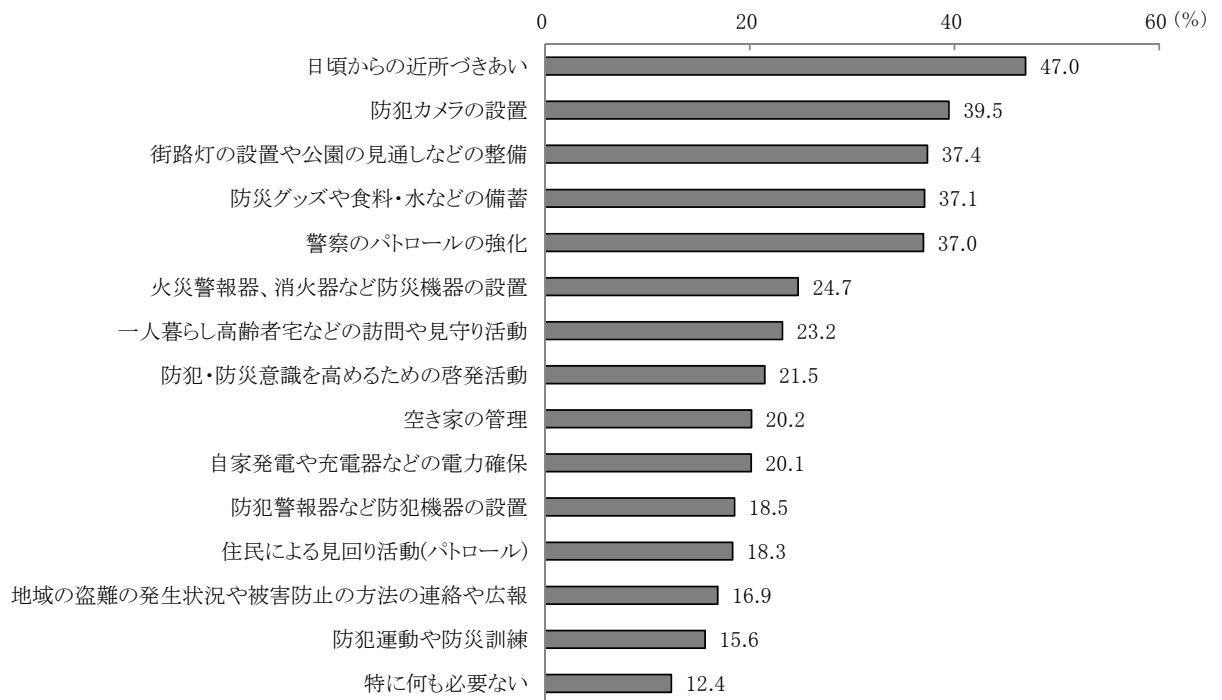
図表3 近所の人に対して困った・不快に思った経験(近所づきあいの状況別) <複数回答>



<快適な近所づきあいに向けて>

このように、近所づきあいがあるからといって、一概に近所の人に対して困った・不快に思った経験が少なくなるわけではない。それでも近所づきあいが必要とされる大きな理由の1つとしては、地域の安心・安全の実現のために「日頃からの近所づきあい」が必要と考えている人が最も多い点があげられる（図表4）。

図表4 地域の安心・安全を実現するために必要なこと<複数回答>



注:「その他」は省略

地域の安心・安全の実現のために「日頃からの近所づきあい」が必要とされるのであれば、適度な距離感を保ちながら近所づきあいをすることが求められる。無論、人と人がつきあう上では、主張がかみ合わなかったり意識や価値観が異なったりすることが多々ある。ここで「だからご近所とはつきあわない」という安易な結論を導くのではなく、相手を理解しようという意識を持ちつつ、かみ合わない部分や異なる部分は互いがある程度許容することが、ご近所づきあいにおいて必要なコミュニケーション能力なのではないだろうか。

いざというときに助け合えるご近所づきあいは、単にネットワークを構築すればよいというものではなく、つながり続けることでネットワークを維持して初めて機能する。もし今、ご近所とあいさつをする関係があるのなら、その関係を維持すべく積極的にあいさつをし続けることが重要なのである。

(研究開発室 みやき ゆきこ)